

日銀短観、製造業減速、非製造業は改善

ポイント① 非製造業は改善

12月13日に発表された12月調査の日銀短観（日本銀行全国企業短期経済観測調査）によれば、全規模・全産業の業況判断DI（ディフュージョン・インデックス、業況が良いという割合から悪いという割合を引いたもの）は、前回2021年9月調査から改善し、大企業非製造業では前回同調査から7ポイント改善しました。一方、これまで改善を続けていた大企業製造業は横ばいとなりました。企業の景況感には業種や規模ごとに差はあるものの、全体としては改善しています。

ポイント② 製造業はコスト増から足踏み

製造業では、世界的な供給制約やエネルギー価格の上昇等による、コスト面での圧迫が考えられます。実際に業種別の業況判断DIを見てみると、自動車産業は中堅・中小企業を中心に悪化している反面、大企業の石油・石炭製品の業況感が大幅に回復しています。大企業非製造業の業況判断DIの改善は、大都市での緊急事態宣言の解除や、ワクチン接種の進展から、飲食店を中心に客足が戻ってきたと考えられます。ただし、パンデミック前と比較すると依然としてマイナス圏を推移しており、足元では新型コロナウイルスの変異株・オミクロン型の出現により、再び景況感が減速する恐れがあります。

ポイント③ 設備投資需要は今後も拡大が

2021年度の設備投資計画は全規模・全産業ベースで前年度比7.9%増と、9月調査と同水準となっており、依然として成長が続いています。世界的に財需要は増加している為、今後も大企業を中心に設備投資が増加すると考えられます。

業況判断DI

（「良い」-「悪い」、%ポイント）

	2021年 9月調査	2021年12月調査				
		最近		先行き		
			変化幅		変化幅	
大企業	製造業	18	18	0	13	-5
	非製造業	2	9	7	8	-1
	全産業	10	14	4	11	-3
中堅 企業	製造業	6	6	0	5	-1
	非製造業	-6	1	7	0	-1
	全産業	-1	3	4	2	-1
中小 企業	製造業	-3	-1	2	-1	0
	非製造業	-10	-4	6	-6	-2
	全産業	-8	-3	5	-4	-1
全規模	製造業	5	6	1	4	-2
	非製造業	-7	0	7	-2	-2
	全産業	-2	2	4	0	-2

（注） 金融機関を除く。「最近」の変化幅は2021年9月調査との比較。「先行き」の変化幅は「最近」との比較。

（出所）「日銀短観（概要）」
（<https://www.boj.or.jp/statistics/tk/yoshi/tk2112.htm/>）
より野村アセットマネジメント作成

生産・営業用設備判断DI 設備投資計画（全産業、全規模）

（「過剰」-「不足」、%ポイント）

	2021年 9月調査	2021年12月調査				
		最近		先行き		
			変化幅		変化幅	
全規模	製造業	2	1	-1	-1	-2
	非製造業	0	-1	-1	-2	-1
	全産業	1	0	-1	-2	-2

（注）、（出所）は業況判断DIと同じ

設備投資計画（全産業、全規模）

（前年度比、%）

	2020年度	2021年度	
		計画	修正率
設備投資額*	-8.5	7.9	0.0
土地投資額	14.4	-5.5	12.5
ソフトウェア投資額	-6.2	13.5	-0.7
研究開発投資額	-4.8	5.4	-0.3

（注） 金融機関を除く。
*：土地投資額を含み、ソフトウェア投資額、研究開発投資額は含まない。

（出所）は業況判断DIと同じ

重要 12月17日 日本金融政策発表
イベント 12月24日 日本全国消費者物価指数（11月）